18歳以上市民向けWEBアンケート　設問設計表（先方修正反映版）　全28問（＋枝問7問／うち問21～23は当事者・家族のみ）

No	設問文	回答形式	選択肢	分岐	設問のねらい	対応KPI（重点目標）※国設定	備考（先方修正の反映）
Ⅰ．回答者属性（クロス集計の軸）							
問1	あなたの年代をお答えください。	単一選択	□20歳未満　□20代　□30代　□40代　□50代　□60代　□70代　□80歳以上	—	年代別に理解度・態度の差を分析する主要軸。若年層分析の柱。	—（分析軸）	
問2	あなたの性別をお答えください。	単一選択	□男性　□女性　□その他　□答えたくない	—	属性クロス軸。	—	
問3	あなたと徳島市の関わりをお答えください。	単一選択	□市内に住んでいる　□市外在住・市内の学校に通学　□市外在住・市内に勤務　□その他	—	大学・専門学校の協力ルートで回答した市外学生を識別。	—	
問4	あなたの職業・就学状況をお答えください。	単一選択	□学生（大学・大学院）　□学生（専門学校・短大）　□会社員・団体職員　□公務員　□自営業・自由業　□パート・アルバイト　□専業主婦・主夫　□無職　□その他	—	学生・若年層を識別し、学校・大学連携施策の根拠とする。	—（分析軸）	【先方修正】旧問4（お住まいの地区）を削除したため繰り上げ（旧問5）
問5	同居しているご家族（世帯構成）をお答えください。	単一選択	□ひとり暮らし　□夫婦のみ　□親と同居　□子と同居　□三世代で同居　□その他	—	世帯類型別の意識差を把握。	—	（旧問6）
問6	あなたと認知症との関わりをお答えください。	複数回答	□自分自身が認知症の診断を受けている　□家族・親族に認知症の人がいる（いた）　□介護・支援をした経験がある　□友人・知人・近所に認知症の人がいる　□仕事で関わっている　□特に関わりはない	★分岐の起点（前3つのいずれか→問21～23へ）	当事者・家族と一般住民を切り分け、理解度・不安・行動の差を分析する最重要軸。	—（重点目標1～3の差分分析）	（旧問7）
Ⅱ．認知症に関する知識・理解度							
問7	認知症は脳の病気などによって起こることを知っていましたか。	単一選択(3件)	□知っていた　□聞いたことはある　□知らなかった	—	認知症の基本的知識の理解度。	重点目標1／アウトカム（基本的な知識の理解度）	（旧問8）
問8	早期に気づき適切に対応することで進行を緩やかにできる場合があることを知っていましたか。	単一選択(3件)	□知っていた　□聞いたことはある　□知らなかった	—	早期発見・対応の知識。受診行動の前提。	重点目標1／アウトカム	（旧問9）
問9	原因によっては治療で改善する場合があることを知っていましたか。	単一選択(3件)	□知っていた　□聞いたことはある　□知らなかった	—	治療可能性に関する正しい知識。	重点目標1／アウトカム	（旧問10）　※旧問11「初期サイン」は【先方修正】により削除（ミスリードの可能性）
Ⅲ．「新しい認知症観」の理解と態度・行動意向（中核）							
問10	あなたが将来、もし認知症になったとき、どのように暮らしたいか（生活のイメージや希望）を具体的に想像できますか。	単一選択	□よく想像できる（希望やイメージがある）　□ある程度想像できる　□あまり想像できない　□まったく想像できない　□わからない	—	「自分事化」の度合いと、理想と現実のギャップ（乖離）の可視化。「想像できない」「わからない」の割合で将来不安を定量化。当事者の声を発信する啓発（本人ミーティング周知等）の予算・施策化の根拠。	重点目標1／アウトカム（新しい認知症観の理解）	★【先方修正・新規追加】「自分の将来の暮らし」の想像度
問11	「新しい認知症観」という考え方を知っていますか。	単一選択(3件)	□よく知っている　□聞いたことはある　□知らない	—	新しい認知症観の認知度。重点目標1の中核。	重点目標1／アウトカム（新しい認知症観の理解）	（旧問12）
問12	認知症になっても、できること・やりたいことを続けながら暮らせると思いますか。	単一選択(5件)	□そう思う　□ややそう思う　□あまりそう思わない　□そう思わない　□わからない	—	『自分らしく暮らせる』という認識。	重点目標1／アウトカム（自分らしく暮らせると考える割合）	（旧問13）
問13	認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられると思いますか。	単一選択(5件)	□そう思う　□ややそう思う　□あまりそう思わない　□そう思わない　□わからない	—	地域共生への認識。	重点目標3／アウトカム	（旧問14）
問14	認知症の人と接するとき、本人の意思を尊重し対等に関わりたいと思いますか。	単一選択(5件)	□そう思う　□ややそう思う　□あまりそう思わない　□そう思わない　□わからない	—	新しい認知症観に基づく態度。	重点目標1・2／アウトカム	（旧問15）
問15	認知症の人が困っている様子を見かけたら、声かけ・手助けをしたいと思いますか。	単一選択(5件)	□そう思う　□ややそう思う　□あまりそう思わない　□そう思わない　□わからない	—	知識でなく『振る舞い（行動意向）』を測定。	重点目標1／アウトカム（振る舞い）	（旧問16）
Ⅳ．イメージ・不安・スティグマ							
問16	認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。	複数回答	□工夫や支えがあれば自分らしく暮らせる　□周囲の支えがあれば地域で暮らせる　□医療・介護で支えられる　□不安・こわい　□家族に負担がかかる　□できないことが増える　□特にイメージはない　□その他	—	スティグマと肯定的イメージの両面を把握。	重点目標1／アウトカム	（旧問17）
問17	自分や家族が認知症かもと感じた場合、受診・相談をためらう気持ちがあると思いますか。	単一選択＋分岐	□ある　□ない　□わからない	「ある」→理由（複数）：□認めたくない　□周囲に知られたくない　□相談先がわからない　□相談しても変わらない　□費用が心配　□時間がない　□その他	受診・相談行動の阻害要因（心理面）を特定。	重点目標1・3	（旧問18／先方が文言修正済み）　▲要確認：理由の選択肢が問19-3と重複します。統合の要否をご判断ください
問18	自分や家族が認知症かもと感じた場合、認知症であることを周囲に知られることに抵抗を感じると思いますか。	単一選択(4件)	□とても感じる　□やや感じる　□あまり感じない　□まったく感じない	—	スティグマ・権利擁護の状況。	重点目標1・2	（旧問19／先方が文言修正済み）　※原文の「自分が家族が」は誤記と判断し「自分や家族が」に修正
Ⅴ．早期発見・相談・窓口認知							
問19-1	自分や家族のことで「認知症かも」と心配になったとき、すぐに専門の窓口や医療機関に相談（または受診）しようと思いますか。	単一選択	□すぐに相談・受診する　□少し様子を見る／ためらう	□すぐに相談・受診する→問19-2へ　／　□少し様子を見る・ためらう→問19-3へ	「心配だけど、どこにも相談せず様子を見る」グレーゾーン層の規模を可視化（早期相談を阻む壁の炙り出し）。	重点目標3／アウトプット	★【先方修正】旧問20を「症状が出たら」→「心配になったら」に変更し、分岐構造化
問19-2	（すぐに相談する方）どこに相談しますか。	複数回答	□家族・親族　□かかりつけ医　□地域包括支援センター　□認知症疾患医療センター　□市役所（健康長寿課等）　□友人・知人　□その他	問19-1で「すぐに相談・受診する」	相談先の認知・選好を把握。	重点目標3／アウトプット	★【先方修正】新設（旧問20の相談先を分岐先へ）
問19-3	（様子を見る・ためらう方）その理由は何ですか。	複数回答	□まだそこまでひどい状態（症状）ではないと思うから　□認知症だと認めるのが怖いから　□どこに相談していいか分からないから　□周囲の人に知られたくないから　□その他	問19-1で「少し様子を見る／ためらう」	ボトルネックの特定（認知不足／心理的抵抗／周知不足）。理由の1位に合わせて啓発を最適化できる。	重点目標1・3	★【先方修正・新規追加】様子見・ためらいの理由
問20	次の相談窓口・機関のうち知っているものをお答えください。	複数回答	□地域包括支援センター　□認知症疾患医療センター　□認知症地域支援推進員　□認知症初期集中支援チーム　□かかりつけ医　□家族会・認知症カフェ　□知っているものはない　★ニーズ調査問9と整合	—	窓口認知度（ニーズ問9現状22.1%と接続）。	重点目標3／アウトプット	（旧問21）
〔当事者・家族の方への追加質問〕問6で「自分自身/家族・親族/介護・支援の経験」を選んだ方のみ							
問21	最初に相談した相手・窓口はどこですか。	複数回答（分岐）	□家族・親族　□かかりつけ医　□地域包括支援センター　□認知症疾患医療センター　□市役所　□相談していない　□その他	問6該当者のみ	当事者・家族の実際の相談行動。一般市民の問19-2との差を分析。	重点目標3	（旧問22）
問22	診断後に役立った支援／不足を感じた支援をお答えください。	複数回答（分岐）	【役立った】□医療の説明　□相談窓口　□介護サービス　□家族会・ピア　□経済的支援　□その他　／　【不足を感じた】同左の各項目	問6該当者のみ	診断後支援（空白の期間）の過不足を把握。	重点目標3	（旧問23）
問23	現在、特に困っていることは何ですか。	複数回答（分岐）	□症状への対応　□精神的な負担　□身体的な負担　□経済的な負担　□仕事との両立　□外出・移動　□相談先がない　□その他	問6該当者のみ	当事者・家族の困りごとの実態。本人・家族調査と補完。	重点目標2・3	（旧問24）
Ⅵ．地域での支え合い・社会参加							
問24	認知症の人や家族が地域で安心して暮らすために必要だと思うことは何ですか。	複数回答	□周囲の人の理解　□相談窓口の充実　□見守りの仕組み　□外出・移動の支援　□気軽に集える居場所（カフェ等）　□就労や社会参加の場　□本人が思いを発信できる機会　□家族への支援　□その他	—	施策ニーズを市民視点で把握し重点施策の優先順位づけに活用。	重点目標3／アウトカム	（旧問25）

18歳以上市民向けWEBアンケート　設問設計表（先方修正反映版）　全28問（＋枝問7問／うち問21～23は当事者・家族のみ）							
No	設問文	回答形式	選択肢	分岐	設問のねらい	対応KPI（重点目標）※国設定	備考（先方修正の反映）
問25	「認知症サポーター」についてお答えください。	単一選択＋分岐	□知っていて、養成講座を受講した　□知っているが、受講していない　□知らない	□受講した→問25-1へ　／　□知っているが未受講・□知らない→問25-2へ	サポーター施策の到達度を把握。	重点目標1／アウトプット	（旧問26）★【先方修正】分岐先を追加
問25-1	（受講したことがある方）これまでに、認知症の人や家族を支える活動や声かけなどをしたことがありますか。	複数回答（分岐）	□①日常生活の中で、困っていると思われる高齢者への声かけや手助けをした　□②家族や親族、近所の人の相談に乗ったり、見守りを行ったりした　□③地域で行われている活動（認知症カフェ、見守りボランティアなど）に参加・協力した　□④自分の仕事（小売店、金融機関、公共	問25で「受講した」	「名ばかりサポーター（休眠層）」と「アクティブサポーター」の割合を可視化。受講者数という『数』から、地域で機能しているかという『質（実効性）』へ。⑤が多い場合、活躍の場づくり（ステップアップ講座・活動	重点目標1／アウトプット・アウトカム	★【先方修正・新規追加】サポーターの受講後の活動実態
問25-2	（受講していない・知らない方）今後、講座を受けてみたいと思いますか。	単一選択（分岐）	□受けてみたい　□機会があれば受けたい　□受けたくない	問25で「未受講」「知らない」	潜在的な受講希望層を把握。	重点目標1／アウトプット	★【先方修正】分岐先として整理
問26	認知症の人や家族の「見守り活動」（日常生活の中での緩やかな声かけ、異変への気づき、声かけ訓練への参加など）に、今後参加・協力したいと思いますか。	単一選択(4件)	□積極的に参加・協力したい　□機会があれば（自分にできる範囲で）協力したい　□あまり協力したくない　□協力したくない	—	市民の協力キャパシティを活動別に把握。見守りは参加ハードルが低く、ゆるい見守りネットワーク構築の根拠になる。	重点目標3／アウトカム	★【先方修正】旧問27を活動別に分離（見守り）
問26-1	認知症の人や家族、専門職などが気軽に集う「認知症カフェ（居場所づくり）」の活動（運営のお手伝い、参加者の話し相手、イベントの企画など）に、今後参加・協力したいと思いますか。	単一選択(4件)	□積極的に参加・協力したい　□機会があれば（自分にできる範囲で）協力したい　□あまり協力したくない　□協力したくない	—	カフェ運営は求められるコミットメントが高い。協力意向層は新規カフェ立ち上げ時のスタッフ潜在層として地域別に活用できる。	重点目標3／アウトカム	★【先方修正】旧問27を活動別に分離（認知症カフェ）
問27	学校の授業や講座などで認知症について学んだことがありますか。	単一選択	□ある　□ない　□覚えていない	□ある→問27-1へ　／　□ない・□覚えていない→問28へ	学校教育・若年層への普及の現状。	重点目標1／アウトプット	（旧問28）★【先方修正】分岐先を追加
問27-1	（「ある」と答えた方）それはどの時期（学校）でしたか。あてはまるものをすべてお選びください。	複数回答（分岐）	□小学校　□中学校　□高等学校　□大学・短期大学・専門学校　□覚えていない／その他（　　）	問27で「ある」	若年層・教育現場への普及啓発の「空白地帯」を特定。どの教育段階が手薄かが判明すれば、教育委員会と連携した重点投入の根拠になる。大学・専門学校連携の現状値にも使える。	重点目標1／アウトプット	★【先方修正・新規追加】学校教育での受講時期の特定
Ⅶ. 自由記述							
問28	認知症の人や家族が安心して暮らせる地域づくりについて、徳島市へのご意見・ご要望をご自由にお書きください。	自由記述	（自由記述欄）	—	定量設問で拾えない課題・要望を定性的に把握。	—	（旧問29）